

論 文 要 旨

学位論文題目：An Investigation of Chinese University Students' Attitudes toward Plagiarism

(英語ライティングにおける中国大学生の盗用問題に関する研究)

氏名：姚 馨

中国大学生の間に多発する英語ライティングにおける盗用問題は世界中で多くの教育研究者の注目を集めている。その中で「文化の違い」理論は論点の一つになっている。多くの研究者がこの理論を支持する一方、盗用問題に関して「文化的違い」は存在しないと主張する学者もいる。本研究はこれらの先行論文に触発され、中国の大学で大学生と英語教師を対象とする調査を行った。本研究の主たる目的はこの理論を歴史や伝統的視点から考察しながら、現地や海外の英語教育者が当問題を良く理解した上で、より合理的教育法や解決法を見つけ出すために、中国の大学の全体的な英語教育環境、特に盗用問題に関する現状を忠実に伝えることである。そのために、(1) 歴史的視点から見た中国のライティングの習慣や教え、(2) 中国の大学における英語教育（主に英作文の教授法に関する）の現状、(3) 中国大学生の盗用に対する知識や態度、の三つの角度から考察した。

文献レビュー部分では、大学内の盗用問題に関する様々な視点からの世界中の先行研究、特に「文化の違い」理論や中国人大学生を研究対象とする代表的な論文を紹介した。さらに、本研究は古代中国の試験制度、当時主導的な作文スタイル、作文の書き方を習得するための伝統的教學方法、著作権に関する歴史文書や古代中国の作家はどのように出典を引用するかなどについて考察した。多くの欧米研究者の中国の文化的作文習慣に対する主流の考え方を批判的に補足する。

研究手順として、まずは地理的に離れた三つの中国の大学から、四人の英語教師を対象にインタビューを行った。インタビューの内容は主に以下の四つである：各大学の英語教育システム；各大学のカリキュラムやそれに応じ実際に採用されている英作文教授法；盗用について何を、どのように教えているのか；具体的な盗用例。

インタビューの後に、595名の中国大学生を対象とし、彼らの盗用に対する態度、知識や実際の経験についてアンケート調査を行った。アンケートは10問で構成され、質問1-9の結果に関して、ラッシュモデルという測定法を使って定量分析を行った。質問10は質的データとして単独で分析された。

インタビューとアンケートの結果分析により、本研究は以下三つの結論に達した。

1. 一部の欧米研究者の指摘通り、教育史的視点から見ると、「模倣」は作文スキルの習得（特に習得過程の初期）において、有効手段の一つとして認められていた。この教學法は昔から評価され、長く実践されていたことが、多くの古代中国の文献からも示唆される。また、「科擧」という古代中国特有の中央試験制度は、厳格に規定された体裁などにより、独創性ではなく形式主義の作文スタイルを助長していた。この習慣は時として「模倣」能力を過度に強調、評価していた可能性もある。しかし、「盗用」は中国の歴史上にお

いても、容認できる行為として社会に認められたことはなかった。多くの人は無意識にある程度「模倣」と「盗用」を混同している可能性はあるが、作文スキルの一つとしての「模倣」と「盗用」の間には根本的な違いがある。実際いくつかの歴史記録に示されているように、現在の「著作権」によく似た概念が古代中国にも存在しており、古代中国の作家も現在一般的に使われている引用法によく似た方法で出典を明らかにしていた。結論として、「模倣」は作文スキルの一つとして中国の歴史上評価・実践されてきたが、中国の歴史文化自体が「盗用」を推奨しているという説に関して必然性は見られない。

2. 本研究は英語教師を対象としたインタビューやカリキュラム、教材、レッスンプランなどを要約し、中国の英語教育体制を明らかにした。CET-4（英語専攻の学生には TEM-4）という英語能力試験が学生の卒業や就職に多大な影響力を持っているため、中国の大学英語教育制度は全体的にこの試験対策を中心にしている。CET-4・TEM-4 で合格点を取るために、作文の体裁に応じた「テンプレート」を暗記し、自分の作文に適用する英作文法が主流になっている。一方、著作権や盗用に関する知識は授業では基本的に扱っていない。

3. 中国大学生を対象としたアンケート調査を分析した結論、大多数の学生は盗用の経験がない、または殆ど無いと報告したが、彼ら自身は盗用を正しく判断できる知識を持っていない可能性も高い。現在中国大学の英語教育・試験制度や実際広く使われている「テンプレート」式の英作文教授法は、結果として中国大学生の盗用や著作権に関する知識の少なさやそれらに対する高い容認度に直結していると考えられる。

結論部分では、本研究の不足点やそれらに基づいたさらなる研究のための課題を挙げ、中国大学生の間に多発する盗用問題について、中国国内及び海外大学の教育研究者に向けて、問題の理解と、より効果的、合理的な解決法も提案した。